（第３種郵便物認可）　山陰中央

31.1.23

江津工 建築甲子園準V

空き家改修 本町地区再生

地域と連携 計画実行評価

江津工業高校（江津市江津町）が、建築系学科がある全国の工業高校生たちが出品する2018年度の「建築甲子園」で、初出場で準優勝に輝いた。江津市街地にある空き家を住民や地元企業と連携して改修し、地域の振興拠点とする取り組みが評価され、快挙を達成した。

（福新大雄）

建築甲子園で準優勝した江津工業高校建築・電気科の生徒3人と、指導に当たった藤原裕太教諭＝江津市江津町、同校（左から2人目から右へ）

建築甲子園は、未来の建築士の創造性や独創性を育もうと、日本建築士会連合会（東京都）と都道府県建築士会が主催し、国土交通省などが後援している。9回目の今回は、人口減などに伴い各地で増加する空き家や古い家を活用、改修して地域を活性化する「地域のくらし リノベーションの可能性」を課題テーマに設定。高校や工業高等専門学校を含む61校から計95点の応募があった。

江津工業高は、建築・電気科3年の生徒3人が課題研究の一環で取り組む江津本町地区（江津市江津町）の再生事業を提案した。同地区は江戸時代に幕府の天領となり、明治維新後も行政、経済の中心地として栄えたが、古い空き家が増えるなどして往時の面影が失われつつあり、若い感性を生かして地域再生に取り組んでいる。

生徒は、市内の町おこしグループやデザイン会社、電気設備工事会社と連携し、印刷会社の事務所だった空き家（130平方メートル）の改修に2018年4月に着手。既に天井や壁を剥いだり、電気の配線を撤去したりして屋内空間の改修を進めており、今後住民の意見を踏まえてカフェや書店、サロンといった用途を決め、20年1月をめどに完成させる計画という。

知野見翔太さん(18)は「活動を通じ、住民や企業の方と交流でき、地元の良さを再発見する機会にもなった」と喜びを語った。指導に当たった藤原裕太教諭は「地域の人たちと連携し、現場で実際に活動している点が評価されたと思う」と話した。

同校では、複数の小規模宿泊施設を一つのホテルに見立てるイタリアの「アルベルゴ・ディフーゾ」（分散したホテル）の考え方に倣い、江津本町地区の空き家5軒程度を民泊施設に改修し、町全体をホテルに見立てて交流人口を増やす構想も検討している。